

# 平成 31 年度 社中学校の学校経営について

## ○ 加東の教育

### 「人間力の育成」

～ 学びから新しい自分づくりと地域づくりをめざす加東市に ～

「生きる力」を基礎として、「ふるさとを愛し、自らの夢に挑む自立した子どもの育成」をめざす。そのため、子ども一人一人の特性に応じた学びを支え、子ども同士が教え合う協働的な学びを保証する。

- 1 子どもの成長を共有できる学校園に
  - ・子どもたち、教師集団、保護者と地域の人々との共有を
  - ・子どもの成長を短期的、長期的に見定め、P D C Aを
- 2 子どもの成長を支える学校園文化を
  - ・認められている、大切にされている、喜びがある、楽しい
  - ・認めあえる、大切にしあえる、喜びあえる、楽しみあえる
  - ・所属感・有用感、自尊感情、学びの価値、価値ある学び
- 3 子どもの成長を保障する教師集団に
  - ・一人一人の子どもがあつての生徒観・教材観であり指導観
  - ・子どもと教材の接点から指導案が生まれる
  - ・教職員が成長し合える職場に 個人力と組織力（組織としての実践がこれを保証する）
- 4 子どもの成長を助長する環境整備を・・・学校力
  - ・限られた条件の中で何が大切かを見極める

- 第2次総合計画・教育大綱・第2期加東市教育振興基本計画  
加東の教育《かとう夢プラン》

教育内容そのものの充実と小中一貫教育の推進  
保育・就学前教育の充実と園・小・中との連携

↑

特色ある学校・小中一貫教育・義務教育9年間の連続した教育の推進  
子どもたちのために（知育・徳育・体育）・・・能力開発伸長・実践  
検証的実践を・・・計画・継続・評価《具体的基準》

## I 校是

人間開眼 ～ 人間力を高める教育の実践 ～

## II 学校教育目標

向上心 ～ になりたい自分になるために ～

## III 教育基本方針

少子高齢化、価値観の多様化、グローバル化の進展など、教育を取り巻く環境が激しく変化する時代にあっても、将来の夢や目標を持ってたくましく生き抜く生徒を育てたい。

本校には、規模や環境などの地域性がそれぞれ大きく異なる5つの小学校から生徒が入学する。生徒一人ひとりの実態のみならず、生徒の背景にあるものを見抜いた指導が不可欠である。来る2024年度に予定される小中一貫校開校を見据え、9年間にわたる義務教育の仕上

げを担当する教育機関として、人間力の育成を目指して関係小学校との連携を更に進めたい。

### 1 「生徒の成長に責任を持つ学校」づくりをめざす

1年あれば、生徒は大幅に変容する。一人の生徒の1年間の成長を、「生徒自身」が、「教師集団」が、「保護者や地域の人々」が、それぞれ実感・共有できる教育活動の展開をめざす。

学校に求められる最も重要な使命は教育課程の全うである。授業時数の確保はもとより、学ぶ魅力があふれる授業を1年間積み重ねることに力を注ぎたい。

生徒の成長は、1年1年の地道な実践の積み重ねにより得られるものである。そのためPDC Aサイクルを意識し、絶えず改善に努める姿勢を持ち続けたい。

#### 〔めざす学校像〕

- (1) 一人ひとりの生徒を大切にす学校
- (2) 確かな学力の定着をはかる学校
- (3) より良いものへと改善に励む学校

### 2 「自立して未来に挑戦する生徒」の育成をめざす

変化の激しいこれからの社会の中で自立して豊かな人生を送るためには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく身につけることが重要である。

互いのよさを認め合い励まし合う仲間が存在が、失敗を恐れず、失敗にくじけない勇気を与える。学級をはじめとする各集団において、さまざまな人とのかかわりを通して相手を正しく理解し協力する大切さを学ぶとともに、何事にも向上心を持って立ち向かおうとする生徒の育成をめざす。

#### 〔めざす生徒像〕

- (1) 日々の学習を大切にし、主体的・意欲的に学び続ける生徒
- (2) 互いの個性や能力を認め合い、仲間とともに力を合わせて生きていこうとする生徒
- (3) 美しい環境を大切にし、健康で安心な生活を送ろうとする生徒

### 3 「生徒の成長を保証する教師集団」づくりをめざす

教えるプロとしての教師の使命は、①一人一人の生徒の実態を「把握」し、②その子の課題を的確に「見取る」ことにある。また、その課題に対して、③ふさわしい「タイミング」で、④適切な「手法・手段」を用いて指導することにある。

そのために、授業力や多様な教育課題への対応力等、教師としての資質と実践的指導力の向上に教職員個々が責任を持って取り組まなければならない。

加えて、組織の一員としての自覚のもとに、学級担任・教科担任・学年担当などの役割に応じて、教職員それぞれの個性・適性を生かしながらすべての生徒をすべての教職員で育むことが求められる。教師一人一人の力量を高めることが重要である。同じ目標に向かって個が結集することは、なお重要である。

#### 〔めざす教師像〕

- (1) 自己研鑽に励む教師

「自立して未来に挑戦する生徒」を育てるために、教育の専門家として研修に励み、専門性を高める教師であること。また、様々な教育実践を通じて、自分の強みや得意分野を伸ばすとともに、弱点には真摯に向き合い不足分を補おうとするなど、向上心を持つ教師であること。

- (2) 生徒と向き合う教師

一人一人の生徒の声に耳を傾け、温かなまなざしと愛情を注ぎ、共に喜び共に悲しみ、その子らしさを認める教師であること。ある時は生徒の輪に飛び込み、またある時は一定の距離を置いて生徒を見る、その両面があって初めて生徒がわかる。

- (3) 協働を楽しめる教師

めざす学校づくりの実現に向けて自己の役割・責任を自覚する教師であるとともに、

他の職員と協力して、機動的に動ける組織を尊重する教師であること。教職員が互いの立場を理解するとともに、「困った時には助けてもらい、得意分野でそのお返しをする」それが当たり前に行われる職場文化を確立したい。

#### (4) 日々の生活の質や教職人生を豊かにする教師

「子どものためであればどんな長時間勤務も良しとする」という働き方は、教師という職の崇高な使命感から生まれるものである。しかし、その中で教師が疲弊していくのであれば、それはかえって「子どものため」にはならない。笑顔で生徒に向き合うために、ワークライフバランスの実現をめざしながら、自身の心身の健康維持・増進と自己実現に努める教師集団でありたい。

## IV 重点目標

### 1 一人ひとりの生徒を大切にす学校

- (1) 「特別の教科 道徳」の時間を要としながら、学校教育全体を通じて道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。指導の機会を逃さない教師の感性を磨きたい。
- (2) 様々な体験活動や交流を通して、人権尊重や共に生きていく社会の実現をめざした人権教育を充実させる。
- (3) 夢や憧れを大切にさせるとともに、自己実現を図るための生き方を主体的に考えさせる進路指導とする。
- (4) 生徒への多面的かつ共感的な理解を図り、人間的な触れ合いに基づく生徒指導を継続し徹底する。とりわけ全職員の共通理解のもと同一步調で指導を行う。
- (5) 「授業づくり」「集団づくり」「適切なかかわり」など、不登校を防ぐための取り組みを充実し、「魅力ある学校づくり」を推進する。また、関係機関と積極的に連携する。
- (6) 特別活動における様々な取り組みが、自主性と規律ある生徒を育てる。生徒会をはじめとする生徒による組織で計画・実践させるだけでなく、評価・改善まで行わせることでより効果的なものとしたい。
- (7) 部活動を通じて責任感や連帯感の涵養に努める。なお、健康・安全について個に応じた指導に配慮する。
- (8) Hyper-Q Uテスト結果を生かし、学級の状態把握を行うとともにその特徴に対処する。すべての生徒が「学校が楽しい」と思える学級づくりに努める。
- (9) 将来グローバルな社会で主体的に生きるため、自己のよりどころとなる伝統や文化について理解を深めさせる。「ふるさと加東」に触れる機会を充実させ、郷土愛を育む。
- (10) 食に関する正しい知識と望ましい食習慣が、心身の健康の増進には不可欠である。家庭・地域との連携の下、学校給食を活用した食育を組織的・計画的・継続的に進める。
- (11) 「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3つの観点を相互に関連させ、教育活動全体を通し情報活用能力を育成する。

### 2 確かな学力の定着をはかる学校

- (1) 基礎・基本の確実な定着を図るとともに、生徒一人一人の個性や能力に応じた学習指導を徹底する。また、学習規律や協同的な学びについて、全校で基準をそろえるとともに徹底して取り組む。
- (2) 基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力など「生きる力」を育む。目標（ねらい）に応じた「見通し」と「振り返り」はどの授業にも必ず取り入れる。
- (3) ユニバーサルデザインを意識し、障害の有る・無しにかかわらず、どの生徒にもわかりやすい授業づくりに挑戦する。
- (4) 特別支援教育について、生徒の障害の状態や発達段階、特性等を的確に把握し、一人一人の能力を伸ばす指導に努める。インクルーシブ教育を推進するとともに、サポートファイルを媒体として関係機関との連携を進める。また、合理的配慮の提供にあたっては、本人・保護者との合意形成を図るとともに、定期的にその成果を検証する。

- (5) 生徒の家庭における学習習慣を確立させるために、「家庭学習はやしちゅう」を徹底させる。家庭の協力のもと、生徒には各教科における学習内容を具体的に示しながら継続的に取り組ませる。なお、1年生に対しては生徒の小学校時代の状況を踏まえた指導としたい。
- (6) 生徒のよさや可能性を生かす観点から、評価方法に一層の工夫を加え、日々の指導と一体化を図る。
- (7) ことばの力の育成、理数教育、環境教育、国際理解教育、福祉教育、防災教育など、今日的な課題に対応した創造的な教育活動の一層の推進を図る。
- (8) 「自らの生き方を高める自尊感情の育成 ～『教える』から『学ぶ』へ～」の研究テーマのもと全職員が協働して研究を進めることで、教員個々が担当教科の理解を深めるとともに授業技術の向上を目指す。
- (9) 生徒が将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現する力を育くむことが望まれる。「トライやる・ウィーク」を核とした「キャリア教育」を推進する。

### 3 より良いものへと改善に励む学校

- (1) 行事や教育活動について常に振り返りを行い客観的に省みるとともに、改善のためのP D C Aサイクルを確立する。
- (2) 保護者や地域住民に対して、学校だより、学年通信、生徒指導通信、保健だより、学級通信、HP等を通じて情報発信することで説明責任を果たす。
- (3) 単なる方法論の改善に止まることなく、学校評議員会等の大所高所からの意見に基づき学校改革を進める。
- (4) 危機管理への取り組みについて、関係機関と効果的に連携するとともに、避難訓練等を重ねることで保護者や地域の理解を得た安全・安心な学校づくりを行う。
- (5) 教職員の能力や適性を生かしながら心の通い合う職員集団づくりに努め、教員個々の実践的指導力の向上を図る。
- (6) 全国学力・学習状況調査結果を検証し、検討したことを全職員で共有することで担当学年や教科にとらわれることなく教員一人一人が自分のこととして日々の授業改善に努める。